

2026 年度（第 17 期） 事業計画

2026 年 4 月 1 日～2027 年 3 月 31 日

**公益財団法人 日本バレーボール協会
(Japan Volleyball Association)**

目 次

1. 事業方針・今年度の重点項目	3
(1) 事業方針	3
(2) 今年度の重点項目	3
2. 事業活動	5
2-1. 代表強化「世界と戦う強く、応援される代表チーム作り」	5
＜バレーボール＞	
2-1-1. フル代表の強化	5
2-1-2. アンダーエイジカテゴリーの強化	8
2-1-3. 情報力強化	9
2-1-4. 代表の環境改善	12
＜ビーチバレーボール＞	
2-1-5. フル代表の強化	12
2-1-2. アンダーエイジカテゴリーの強化	12
2-1-6. 国際的な情報力強化	12
2-1-7. 代表の環境改善	13
2-2. 競技普及「競技に携わる多くの仲間とのつながり拡大」	13
2-2-1. 競技人口拡大のための重点施策	13
2-2-2. 指導者教育や資格制度の見直し	17
2-2-3. 審判員養成・活動支援	18
＜バレーボール＞	
2-2-4. 競技体験機会の提供	21
2-3. マーケティング「ファンや企業の皆様へ向けた新たな価値の発掘・提供」	23
2-3-1. 社会活動の推進とパートナー協業による新分野開拓	23
2-3-2. 新ブランディング活用	24
2-3-3. プロモーション戦略の立案・実施	24
2-3-4. ファン体験のクオリティ向上	24

2－3－5．トップリーグと連動したファンマーケティングの推進	24
2－4．社会貢献「豊かな社会の実現に向けた貢献活動」	24
2－4－1．環境保護活動	24
2－4－2．教育プログラム開発・実施	24
2－4－3．生涯スポーツ推進	24
2－4－4．特別支援活動	25
2－5．組織運営「組織改革による誠実で信頼される組織運営と全国ネットワークの連携強化」	25
2－5－1．ガバナンスコード適合性の継続的改善	25
2－5－2．全国ネットワーク作り	25
2－5－3．経営方針の決定および適切な予算配分を実行できるシステム構築	25
2－5－4．人材関連施策	25
2－5－5．国際交流・協力事業	25

1. 事業方針・今年度の重点実施項目

公益財団法人日本バレーボール協会（以下 JVA）は、中長期計画 2028 により、2026 年度の目標項目達成に向けてバレーボール界全体がひとつになり確実に各種事業を推進して参ります。

また、スポーツ界全体やバレーボールを取り巻く環境や社会の変化に柔軟に対応するために、活動の柱となる代表強化・競技普及・マーケティング・社会貢献・組織運営において具体的な目標の相互作用を起こしながら全力で取り組みます。

更に、継続的にガバナンス・コンプライアンスの強化を推進し、信頼される組織運営を行うとともに日本全体の発展に向けた戦略的予算配分や、競技者、チーム、大会運営でバレーボールを支える人材の育成など、バレーボール活動におけるすべての環境整備を目指します。

（1）事業方針

1) 代表強化

世界トップレベルと戦える、強い代表チームを作り上げるとともに継続的にオリンピックへ出場する体制を維持・強化する。また、2028 年ロサンゼルスオリンピックにおいては、全カテゴリーでの出場を目指し、メダル獲得に向けた競技力の向上を図る。

2) 競技普及

登録制度改革による競技者や指導者の現状把握、それを支える各都道府県協会の法人化の推進などを通じて、少子化や部活動の地域展開に対応しながら幅広い層に向けた施策に注力し、競技に携わる多くの仲間とのつながりを広げていく。

3) マーケティング

活動を支えてくださる皆さまへ新たな価値を創造・活用し、収益向上を図る。

4) 社会貢献

バレーボールを通じて、豊かな社会の実現に向けた活動を推進する。そのために競技特性を活かした社会貢献活動を明確化し実行する。

5) 組織改革

ガバナンス強化によりバレーボール界全体で、誠実で信頼される組織運営の実行を図る。
加えて JVA と加盟団体とのネットワークを充実させ、相互の連携を強固にすることによりバレーボール界の更なる発展に向けた基盤を作る。

（2）今年度の重点項目

- 1) インドア（フル代表男女）については、2026 年度に開催されるアジア選手権において、ロサンゼルスオリンピック出場権の獲得を最重要目標とする。代表チームの強化に向け、戦術力・フィジカル・メンタル・医科学サポートなど総合的な強化施策を推進する。
なお、インドア、ビーチともにオリンピック後も見据え、一貫した強化体制を構築する。

ビーチについては、愛知・名古屋アジア競技大会において男子はベスト 8、女子はメダル獲得を目標とする。事業方針に基づき、既存の強化活動を着実に継続し、国際競技力向上のための環境整備や育成プログラム（インドアからの転向など）の改善を図り、中長期的な強化基盤を確立する。

◇強化拠点の設置と人材育成

JVA として専用の強化拠点を設置し、育成環境の充実を図る。将来有望選手育成に加え、指導者の養成にも計画的に取り組み、日本バレーボールの競技力向上を持続的に支える人材基盤を構築する。

- 2) JVA メンバー制度による登録管理システム（MRS）の登録を推進するため、JVA、都道府県協会、各種連盟が開催する国内競技会において、「大会管理機能」を利用した大会参加申し込みや各種大会運営を実施していく。また、登録管理システム（MRS）の機能普及や大会運営作業の効率化を図る目的として、システムの操作説明会や研修会を実施する。
- 3) JVA の活動やその価値に賛同していただいた協賛パートナーの獲得、国際親善試合などの日本代表イベントの積極的な実施と活用、観戦やグッズ購入などファン体験の質の向上、日本代表肖像活用の積極的な推進、ビーチバレーボールを含めた国内大会の活性化などを通じて、事業収益向上につなげる。
- 4) 「つなぐ力」が生み出す価値を社会貢献に関する具体的なアクションに結び付け、社会貢献委員会・アスリート委員会を中心に着実に遂行する。
- 5) ガバナンス強化によりファンの皆様を含む、競技を支える全ての方から信頼感と期待感を寄せられる透明で誠実な組織運営を実現する。また、加盟団体の法人化を推進し、バレーボール界全体の信頼性向上と連携強化も同時に図っていく。

【補足】

- (1) JVA メンバー制度：登録に関する制度の名称
- (2) 登録管理システム：Membership Registration System（MRS）
- (3) JVA-MRS とは：国内のバレーボールに関わる全ての方が利用できる、個人登録・チーム登録・大会申込・各種資格登録を行うための管理システムです。JVA-ID の取得により、選手・スタッフ・役員の活動に必要な様々な手続きが利用できる。

2. 事業計画

2-1. 代表強化「世界と戦う強く、応援される代表チーム作り」

<バレーボール>

2-1-1. フル代表の強化

競技力向上事業及び競技力向上に係る国際大会派遣事業（バレーボール）

○各カテゴリー日本代表チームの選手育成・強化および国際派遣事業（男子）

2026年度より、2028ロサンゼルスオリンピックに向けた4年間の2年目がスタートする。2025-26大同生命SV.LEAGUEが5月第3週まで行われるため、最初の活動は若手を中心とした日本代表活動を始動する。4月は国内で若手有望選手の育成を行い、5月から選考を含む強化合宿を実施、今シーズンの最大の目標であるオリンピック出場権獲得を目指して強化を推進していく。6～7月のバレーボールネーションズリーグ（VNL）では2年ぶりの表彰台を狙いにいく。8月には海外強豪チームを日本に招聘し、合同合宿を実施。アジア選手権に向けて最終調整を行ない、オリンピック出場権獲得に挑む。アジア大会については、強化・育成面とチーム状況を見ていきながら、最強メンバーを編成していく。

事業名(期間)	場所
バレーボールネーションズリーグ男子第1週(6/10-6/14)	中国（臨沂）
バレーボールネーションズリーグ男子第2週(6/24-6/28)	フランス（オルレアン）
バレーボールネーションズリーグ男子第3週(7/15-7/19)	日本（関西）
バレーボールネーションズリーグ男子ファイナルラウンド(7/29-8/2)	中国（寧波北侖）

国内で強化合宿・親善試合（海外強豪チーム）を行い、アジア選手権に向けて、VNLで出た課題の修正に取り組む。アジア選手権ではオリンピック出場権獲得を向けて優勝を目標とする。

事業名(期間)	場所
男子アジア選手権（9/4-9/13）	日本（福岡県）

アジアの他の国がどのようなメンバー構成で臨んでくるか分からないが、日本はアジア競技大会を2028年ロサンゼルスオリンピックのシミュレーションと位置づけ、最大のパフォーマンスを発揮するとともにアジア競技大会でもメダル獲得を目指す。

事業名(期間)	場所
男子アジア競技大会（9/27-10/3）	日本（名古屋）

国内合宿

B 代表の合宿も並行して実施し、冬には若手有望選手を中心とした強化合宿を実施する。

事業名(期間)	場所	期間		人数	
		泊	日	役員	選手
260430 男子 JPN 合宿(NTC)(4/30-5/10)	NTC	10 泊	11 日	20 名	45 名
260516 男子 JPN 合宿(東レ)(5/16-5/22)	東レアローズ	6 泊	7 日	14 名	30 名
260523 男子 JPN 合宿(NTC)(5/23-6/6)	NTC	14 泊	15 日	14 名	20 名
260702 男子 JPN 合宿(NTC)(7/2-7/11)	沖縄	9 泊	10 日	14 名	16 名
260811 男子 JPN 合宿(国内)(8/11-8/19)	国内	8 泊	9 日	14 名	16 名
260820 男子 JPN 合宿(NTC)(8/22-8/30)	NTC	8 泊	9 日	14 名	16 名
261215 男子 JPN 若手有望選手強化合宿 (NTC) (12/15-12/18)	NTC	3 泊	4 日	10 名	17 名
270115 男子 JPN 若手有望選手強化合宿 (未定) (2/15-2/18)	未定	3 泊	4 日	10 名	14 名
260605 男子 JPNB 合宿(未定)(6/5-6/14)	未定	9 泊	10 日	6 名	14 名
260621 男子 JPNB 合宿(未定)(6/21-6/30)	未定	9 泊	10 日	6 名	14 名

○各カテゴリー日本代表チームの選手育成・強化および国際派遣事業（女子）

2026 年度で最も重要視する大会は、アジア選手権である。アジア選手権で 2028 ロサンゼルスオリンピック出場権を獲得することを目指し、適所に資源を注力する。強化の始まりは 4 月第 5 週からである。海外リーグや国内リーグを終えた選手から、暫時、集合する。5 月第 1 週には日本代表選手が全員集まり、本格的に強化を開始する。スタッフの体制に大きな変更は無く、アクバシュ監督体制 2 年目を、入念な準備を経て、良いスタートを切る所存である。強化の方針として、8 月下旬のアジア選手権に向けて、段階的にレベルアップを図る。①5 月は国内で着実な強化を行い、②6～7 月のバレーボールネーションズリーグ（VNL）の第 1 週から第 3 週では好守のプレーイングシステムの精度を高め、③VNL ファイナルラウンドに進出し、メダル獲得のチャンスを窺う。

事業名(期間)	場所
バレーボールネーションズリーグ女子第 1 週(6/3-6/7)	カナダ（ケベックシティ）
バレーボールネーションズリーグ女子第 2 週(6/17-6/21)	フィリピン（未定）
バレーボールネーションズリーグ女子第 3 週(7/8-7/12)	日本（関西）
バレーボールネーションズリーグ女子ファイナルラウンド(7/22-7/26)	中国（マカオ）

8 月はアジア選手権に向けて徹底した強化を行う。VNL を通じて高めた攻守におけるプレーイングシステムを、アジア選手権での競合相手に適したシステムにより高めていくことがテーマとなる。アジア選

手権では現時点で日本が持つ資源すべてを投下し、オリンピック出場権獲得に挑戦する。

事業名(期間)	場所
アジア女子選手権大会(8/21-8/30)	中国（天津）

9月のアジア競技大会に向けて、先のアジア選手権に向けて高めた攻守のプレーイングシステムを維持していくことがテーマとなる。

アジアの他の国がどのようなメンバー構成で臨んでくるか分からないが、日本はアジア競技大会を2028年ロサンゼルスオリンピックのシミュレーションと位置づけ、最大のパフォーマンス発揮を目指す。

事業名(期間)	場所
アジア競技大会 女子バレーボール競技(9/16-9/22)	日本（名古屋）

上記の各大会に向けて、以下のような国内強化合宿を行う。また、アクバシュ監督の意向を受けて、Bチームを編成して強化する。この目的は、コアメンバーとバックアップメンバーの技量の差を埋めることを狙いとしている。Bチームは昨シーズンとは異なる構成となる見込みである。

事業名(期間)	場所	期間		人数	
		泊	日	役員	選手
女子日本代表 合宿 (4/27-5/27)	NTC	30泊	31日	21名	28名
女子日本代表 合宿 (6/9-6/13)	NTC	4泊	5日	14名	16名
女子日本代表 合宿 (6/23-7/5)	NTC	12泊	13日	14名	16名
女子日本代表 合宿 (7/13-7/17)	NTC	4泊	5日	15名	16名
女子日本代表 合宿 (7/31-8/18) ※VNL ファイナルラウンドに進出しなかった場合は変更	NTC	18泊	19日	15名	21名
女子日本代表 合宿 (9/4-9/13)	国内	9泊	10日	15名	12名
女子日本代表 B チーム合宿 (5/27-6/5)	国内	9泊	10日	8名	12名
女子日本代表 B チーム合宿 (6/5-6/15)	NTC	10泊	11日	8名	12名
女子日本代表 B チーム合宿 (6/15-6/23)	薩摩川内	7泊	8日	8名	12名
女子日本代表 B チーム合宿 (6/23-7/6)	NTC	9泊	10日	8名	12名

2-1-2. アンダーエイジカテゴリーの強化

競技力向上事業及び競技力向上に係る国際大会派遣事業（バレーボール）

○各カテゴリー日本代表チームの選手育成・強化および国際派遣事業（男子）

＜ユニバ日本代表＞

男子アジア東部地区選手権大会に向けて選手強化を図る。メダル獲得を目指す。

事業名(期間)	場所	期間		人数	
		泊	日	役員	選手
男子ユニバ日本代表 合宿 (6/6-6/9)	国内	3 泊	4 日	8 名	20 名
男子アジア東部地区選手権大会（未定） (7/13-7/27[試合:7/16-7/24])※事前合宿あり	未定	14 泊	15 日	8 名	12 名
男子ユニバ日本代表東西大学合同強化合宿 (11/2-11/6)	NTC	3 泊	4 日	8 名	30 名
男子ユニバ日本代表 合宿(2/3-2/7)	NTC	3 泊	4 日	8 名	20 名

＜C: U21/20 日本代表＞

2026 年度に大会出場がないため 2027 年の U20 アジア選手権でメダル獲得と世界選手権の出場を同時に目指す。主に 2027 年 1 月～3 月で強化合宿を開始する。2027 年に U20 アジア選手権開催予定（詳細未定）。他大会と日程が重なった場合には、チーム編成が課題となるが、世界選手権出場権獲得を目指す。

事業名(期間)	場所	期間		人数	
		泊	日	役員	選手
男子 U20 大会未定	未定	14 泊	15 日	7 名	14 名
男子 U20/U21 日本代表 合宿（1 月未定）※2027 年大会に向けて	国内	4 泊	5 日	7 名	14 名
男子 U20/U21 日本代表 合宿（2 月未定）	国内	18 泊	19 日	7 名	14 名
男子 U20 日本代表 合宿（3 月未定）	国内	6 泊	7 日	7 名	14 名

＜D: U19/U18 日本代表＞

前回 2024 年の U18 アジア選手権で 4 位に入り世界選手権の出場権を獲得した。アジア選手権大会に向け、4 月～6 月に選手選考、7 月に大会直前合宿を行い、チームの強化を図る。U18 世界選手権ではメダル獲得と世界選手権出場権獲得を目標とする。

事業名(期間)	場所	期間	人数
---------	----	----	----

		泊	日	役員	選手
男子 U18 日本代表 合宿 (4/21-4/24)	国内	3 泊	4 日	7 名	18 名
男子 U18 日本代表 合宿 (6/12-6/15)	国内	3 泊	4 日	7 名	12 名
男子 U18 アジア選手権大会 (試合:7/3-7/18[7/12-7/18]) ※事前合宿あり	バーレーン	14 泊	15 日	8 名	14 名
男子 U19 日本代表 合宿 (11/30-12/3) ※2027 年大会に向けて	薩摩	3 泊	4 日	7 名	24 名
男子 U19 日本代表 合宿 (2/17-2/20)	NTC	3 泊	4 日	7 名	24 名
男子 U19 日本代表 合宿 (3/18-3/21)	NTC	3 泊	4 日	7 名	18 名

<E: U17/U16 日本代表>

U17 はアンダーカテゴリーの世界選手権が初めてとなる選手で構成されるため、4～6 月は U17 世界選手権に向けて選手の育成・強化を行う。男子は初めての U17 世界選手権出場になり 8 位入賞以上を目指す。

事業名(期間)	場所	期間		人数	
		泊	日	役員	選手
男子 U17 日本代表 合宿 (4/20-4/23)	国内	3 泊	4 日	7 名	25 名
男子 U17 日本代表 合宿 (6/10-6/13)	国内	3 泊	4 日	7 名	20 名
男子 U17 日本代表 合宿 (8/10-13)	国内	3 泊	4 日	7 名	14 名
男子 U17 世界選手権大会 (8/14-8/29[試合:8/19-29]) ※事前合宿あり	アジア	14 泊	15 日	8 名	14 名
男子 U16 日本代表 合宿 (1/20-1/23) ※2027 年大会に向けて	国内	3 泊	4 日	7 名	20 名
男子 U16 日本代表 合宿 (3/10-3/13)	国内	3 泊	4 日	7 名	20 名

○各カテゴリー日本代表チームの選手育成・強化および国際派遣事業（女子）

<ユニバ日本代表（大学卒業 1 年目と大学生を中心に構成される日本代表チーム）>

2026 年度の活動は、2027 年韓国・忠清で行われるワールドユニバーシティゲームズ（WUCG）に向けた強化を目的とする。今年度は大学生中心にメンバーを構成する。国内合宿と、女子アジア東部地区選手権を強化の機会として、来年の WUCG へのシミュレーションを行っていく。

事業名(期間)	場所	期間		人数	
		泊	日	役員	選手
女子ユニバ日本代表 合宿 (5/25-5/29)	国内	4 泊	5 日	9 名	24 名

女子ユニバ日本代表 合宿 (8/3-8/9)	国内	6泊	7日	9名	14名
女子アジア東部地区選手権大会 (8/9-8/17 [試合：8/11-8/16])	香港	8泊	9日	9名	14名
女子ユニバ日本代表 合宿 (2/22-2/26) ※2027年WUGに向けて	NTC	4泊	5日	9名	24名

<C: U20/U21 日本代表>

2026年のU20アジア選手権大会はスキップされ、2027年にU20アジア選手権、そして、2028年にU21世界選手権が開催される予定である。それを前提に、2026年度は、2028年世界選手権でメダルを獲得することを目標にし、それに向けて、チームのプレーイングシステムを理解することと、その実践、また、よりよいアスリートになるためのマインドセットを持つことを活動のテーマにして強化に取り組む。2026年度の高校の国内大会の時期に重ならないように、7月、11月、2月に強化合宿を行う。2027年3月には海外遠征(ヨーロッパを想定)を行い、知識と経験の上積みを図る。

事業名(期間)	場所	期間		人数	
		泊	日	役員	選手
女子 U20 日本代表 合宿 (7/6-7/10)	国内	4泊	5日	7名	24名
女子 U20 日本代表 合宿 (11/23-11/27)	NTC	4泊	5日	7名	24名
女子 U20 日本代表 合宿 (2/15-2/19)	NTC	4泊	5日	7名	20名
女子 U20 日本代表 直前合宿 (3/15-3/19)	NTC	4泊	5日	7名	14名
女子 U20 海外遠征 (3/19-3/27)	未定	8泊	9日	7名	14名

<D: U18/U19 日本代表>

U18アジア選手権大会に向け、4月に国内強化合宿を行い、大会に向けて準備を整える。U18アジア選手権大会ではメダル獲得と2027年に開催されるU19世界選手権出場権獲得を目指す。発掘育成の視点に加えて、チームとしてのバランスを構築した上での強化を図っていく。

事業名(期間)	場所	期間		人数	
		泊	日	役員	選手
女子 U18 日本代表 合宿 (4/27-5/1)	国内	4泊	5日	7名	25名
女子 U18 日本代表 直前合宿 (6/25-6/27)	国内	2泊	3日	7名	14名
女子 U18 アジア選手権大会 (6/27-7/8 [試合：7/1-7/7])	タイ	11泊	12日	9名	14名
女子 U19 日本代表 合宿 (11/30-12/4)	NTC	4泊	5日	7名	24名

※2027 年大会に向けて					
女子 U19 日本代表 合宿 (2/21-2/25)	NTC	4 泊	5 日	7 名	24 名
女子 U19 日本代表 合宿 (3/17-3/21)	NTC	4 泊	5 日	7 名	24 名

<E: U16/U17 日本代表>

2025 年の U16 アジア選手権大会で 4 位に入り出場権を獲得した U17 世界選手権大会に向け、5・6 月に選手選考合宿を行う。7 月に国内および現地で直前合宿を行いチームの強化を図る。U17 世界選手権では 8 位入賞以上が目標。安定したスタッフ体制の構築も目指す。

事業名(期間)	場所	期間		人数	
		泊	日	役員	選手
女子 U17 日本代表 合宿 (5/18-5/22)	国内	4 泊	5 日	7 名	24 名
女子 U17 日本代表 合宿 (6/22-6/26)	国内	4 泊	5 日	7 名	20 名
女子 U17 日本代表 合宿 (7/21-7/27)	国内	4 泊	5 日	7 名	14 名
女子 U17 世界選手権大会 (7/28-8/17 [試合：8/6-8/16])	チリ	20 泊	21 日	8 名	14 名
女子 U16 日本代表 合宿 (11/9-11/13) ※2027 年大会に向けて	NTC	4 泊	5 日	7 名	24 名
女子 U16 日本代表 合宿 (2/15-2/19)	NTC	4 泊	5 日	7 名	24 名
女子 U16 日本代表 合宿 (3/8-3/12)	NTC	4 泊	5 日	7 名	24 名

2-1-3. 情報力強化（収集力強化、蓄積、活用）

競技力向上にかかわるバレーボール技術・戦術の調査研究及びスポーツ医・科学の調査研究事業
(バレーボール/ビーチバレーボール共通)

- (1) 日本代表選手の科学的測定評価、測定結果に基づくトレーニング処方立案とサポート
- (2) 日本代表チームとの対戦が想定される外国チームの戦力掌握
- (3) トレーナーおよびアナリストの育成と教育及び日本代表チームへの常同と日本代表チームが利用する機材およびデータの管理・運用
- (4) 日本代表チームにドクターを派遣し、歯科・整形外科診断を中心に選手の健康維持と怪我防止及び傷害発生時の対処、薬剤の手配
- (5) アンチ・ドーピングの啓発を含むスポーツ・インテグリティの向上を図る
- (6) 感染症専門ドクターの示唆、感染症対策の実施と安心・安全なトレーニング環境を創る

2-1-4. 代表の環境改善

競技・練習環境の整備、情報発信

○味の素ナショナルトレーニングセンター バレーボール専用コート設備

- (1) 備品のメンテナンス
- (2) 備品の新規購入

<ビーチバレーボール>

2-1-5. フル代表の強化

競技力向上事業及び競技力向上に係る国際大会派遣事業（ビーチバレーボール）

○各カテゴリー日本代表チームの選手育成・強化および国際派遣事業（男子/女子）

2026年度は、就任2年目を迎えるビーチバレーボール男女日本代表スティーブ・アンダーソン監督の下、2028年ロサンゼルスオリンピックに向けた4年計画に基づく強化戦略を本格的に推進するとともに、2032年ブリスベンオリンピックを見据えた中長期的な強化の土台づくりを継続して進める。

2026年のターゲットイベントは、ロサンゼルスオリンピックの予選大会となる「2026ビーチバレーボールアジア選手権大会」および、自国開催となる「第20回アジア競技大会（2026／愛知・名古屋）」とする。2026年6月までにコアチームの選定を行い、国際大会および事前合宿への戦略的な派遣を実施するとともに、スポーツ医・科学を活用した継続的なサポートを行うことで、両大会における高い競技成績の達成を目指した強化活動を展開する。

事業名(期間)	場所
2026ビーチバレーボールアジア選手権大会（未定）	未定
第20回アジア競技大会（2026／愛知・名古屋）（9/20-10/3）	日本（愛知県碧南市）
バレーボールワールドビーチプロツアー（通年）	世界各地
AVCビーチツアーオープン（通年）	アジア各地
第6回アジアビーチゲームズ（2026／三亜）（4/23-29）	中国（三亜）

2-1-6. アンダーエイジカテゴリーの強化

競技力向上事業及び競技力向上に係る国際大会派遣事業（ビーチバレーボール）

○各カテゴリー日本代表チームの選手育成・強化および国際派遣事業（男子/女子）

<ユニバ日本代表>

9月にポルトガルで行われる2026FISUビーチバレーボール世界大学選手権大会に向けて選手強化を図る。

事業名(期間)	場所
2026FISUビーチバレーボール世界大学選手権大会（9/17-22）	ポルトガル（フィゲイラ）

<C：U21日本代表>

2026 年は U21 カテゴリーの国際大会が未開催となることから、練習会および合宿の開催を計画的に実施し、選手強化を図る。これらの取り組みを通じて、2027 年に予定されている世界選手権への出場権獲得を目指す。

<D: U18 日本代表>

2026 年より、当該年代区分は U19 から U18 へ変更となる。U18 アジア選手権大会に向けて国内強化合宿を実施し、大会に向けた準備を進める。男女ともに、7 月に開催予定の U18 世界選手権への出場権獲得を目標とする。

事業名(期間)	場所
2026 ビーチバレーボール U18 世界選手権大会 (7/8-12)	オランダ (ハーグ)
2026 ビーチバレーボール U18 アジア選手権大会 (未定)	未定
第 4 回ユースオリンピック競技大会 (2026/ダカール)	セネガル (ダカール)

2-1-7. 代表の環境改善

競技・練習環境の整備、情報発信

(1) 川崎マリエンビーチバレーボールコート設備

- ① 強化戦略プランでのマネジメントの実行
- ② 情報戦略分野での継続支援
- ③ スポーツ医・科学情報分野での人的リソース配備
- ④ 各種研修会による教育サポート

(2) ビーチバレーボールアスナビ

ビーチバレーボールの普及を目的に、ビーチバレーボール版アスナビを新規に立ち上げる。卒業後、競技継続を希望する学生に対して就職支援を行い、卒業後も競技を継続できる環境構築を目指す。

2-2. 競技普及「競技に携わる多くの仲間とのつながり拡大」

2-2-1. 競技人口拡大のための重点施策

○競技会開催事業

「JAPAN バレーボール宣言」の理念とビジョンに基づき、“誰もが・いつでも・どこでも”バレーボールを身近に心から楽しめる環境を提供し、バレーボールに関わるすべての人々を支え、バレーボールが生涯にわたって生活の一部となり、より豊かなスポーツ文化を育むことを目指して各種国内競技会を開催する。

2026.01.20 時点

A：6人制

大会名	日程	開催地
令和8年度天皇杯・皇后杯 JVA 全日本バレーボール選手権大会		
都道府県ラウンド	4～7月	全国各地
ブロックラウンド	9月	全国各地
ファイナルラウンド	未定	未定
JVA 第17回全国バレーボール総合リーグ優勝大会		
ブロックラウンド	4～12月	全国各地
セミファイナルラウンド	2027年1月～3月	未定
ファイナル	2027年3月	未定
第53回全国高等学校定時制・通信制大会	未定	神奈川県（平塚市）
全国高等学校総合体育大会 男子	8/5～8/8	京都府（京都市）
全国高等学校総合体育大会 女子	8/4～8/7	滋賀県（草津市、守山市）
JVA 第46回全日本バレーボール小学生大会		
男子	8/3～6	東京都、千葉県、神奈川県
女子		
混合		
ジャパンプラブカップ JVA 第45回全日本バレーボールクラブ選手権大会 女子	8/14～17	宮城県（仙台市）
ジャパンプラブカップ JVA 第45回全日本バレーボールクラブ選手権大会 男子	8/7～10	香川県（高松市）
第56回全日本中学校選手権大会	8/20～23	広島県（広島市）
第61回全国高等専門学校体育大会	8/28～30	三重県（伊勢市）
JVA 第29回全国バレーボールヤングクラブ大会	9/26～27	大阪府、和歌山県
第80回国民スポーツ大会	10/11～14	青森県（青森市、つがる市、五所川原市）
ミキプルーンスーパーカレッジバレー2026 秩父宮賜杯 第79回全日本バレーボール大学選手権大会 男子	11/30～12/6	東京都、埼玉県

ミキプルーンスーパーカレッジバレー2026 秩父宮妃賜杯 第 73 回全日本バレーボール大学選手権大会 女子	11/30～12/6	東京都、埼玉県
JOC ジュニアオリンピックカップ 第 40 回全 国都道府県対抗中学大会	12/25～28	大阪府（大阪市）、兵庫県（尼崎市、 ほか）
春の高校バレー JVA 第 79 回全日本バレーボール高等学校選手 権大会	2027/1/5～8 1/10～11	東京都（渋谷区）

B：9人制

大会名	日程	開催地
JVA 第 12 回全日本バレーボールトップリーグ 9 人制		
女子ファーストディビジョン レギュラーラウンド	5/30～6/28	岐阜県（大垣市）、広島県（広島市）、 鹿児島県（薩摩川内市）
女子ファーストディビジョン ファイナルラウンド	7/18～8/2	長野県（塩尻市）、大阪府（守口市）
女子ファーストディビジョン 入替戦	12/19	岐阜県（大垣市）
男子ファーストディビジョン レギュラーラウンド大阪	9/12～13	大阪府（大阪市）
男子ファーストディビジョン レギュラーラウンド兵庫	10/16～18	兵庫県（伊丹市）
男子ファーストディビジョン レギュラーラウンド東京	12/11～12	東京都（武蔵野市）
男子ファーストディビジョン 入替戦	12/13	
男子ファーストディビジョン ファイナルラウンド東京	12/13	
JVA 第 78 回全日本バレーボール実業団選手権 大会 9 人制 女子	7/23～25	岐阜県（岐阜市、山県市ほか）
JVA 第 79 回全日本バレーボール実業団選手権 大会 9 人制 男子	7/23～26	岐阜県（岐阜市、山県市ほか）
ジャパンプラブカップ JVA 第 45 回全日本バレーボールクラブ選手権 大会 9 人制 男子	8/7～10	鳥取県（鳥取市）

ジャパンプラブカップ JVA 第 45 回全日本バレーボールクラブ選手権 大会 9 人制 女子	8/13～16	大阪府（大阪市）
日本スポーツマスターズ 2026 石川大会	9/18～22	石川県（金沢市ほか）
JVA 第 25 回全国バレーボール社会人優勝大会 9 人制西ブロック	10/2～5	滋賀県（草津市）
JVA 第 25 回全国バレーボール社会人優勝大会 9 人制東ブロック	11/20～23	福井県（福井市）
JVA 第 96 回全日本バレーボール選手権大会 9 人制 男子	11/20～23	福岡県（福岡市）
JVA 第 95 回全日本バレーボール選手権大会 9 人制 女子	11/20～23	福岡県（福岡市）

C：ソフトバレーボール

大会名	日程	開催地
JVA 第 28 回全国ソフトバレーボールフェスティバル レディース富山	9/25～27	富山県（富山市）
JVA 第 34 回全国ソフトバレーボールフェスティバル シルバー秋田	10/2～4	秋田県（秋田市）
JVA 第 15 回全国ソフトバレーボールフェスティバル スポレク佐世保	10/23～25	長崎県（佐世保市）
JVA 第 10 回全国ソフトバレーボール フェスティバル	※中止	

D：8 人制

大会名	日程	開催地
ヴィンテージ 8's JVA 第 17 回全国バレーボール交流大会 8 人制	9/25～27	北海道（函館市、北斗市）

2-2-2. 指導者教育や資格制度の見直し

○指導者養成事業

日本バレーボール協会が養成する「指導者」は、スポーツの価値やスポーツの未来への責任を自覚し、プレーヤーズセンタードの考え方のもとに暴力やハラスメントなどあらゆる反倫理的行為を排除し、常に自らも学び続けながらプレーヤーの成長を支援することを通して、豊かなスポーツ文化の創造やスポーツの社会的価値を高めることに貢献できる指導者の養成を目的とする。

A：JSPO 公認スポーツ指導者資格・バレーボールコーチ養成講習会

■JSPO 公認スポーツ指導者（競技別指導者資格）専門科目認定講習会

- ・スタートコーチ：都道府県スポーツ協会と都道府県バレーボール協会で実施
- ・コーチ 1：都道府県スポーツ協会と都道府県バレーボール協会で実施
- ・コーチ 2：都道府県スポーツ協会と都道府県バレーボール協会で実施
- ・コーチ 3：JVA 指導者養成委員会で実施
- ・コーチ 4：JVA 指導者養成委員会で実施

B：JVA 公認指導者養成講習会

- ・準指導員（コーチ 1 専門科目）：全国学生対象コーチ 1 養成講習会
- ・準指導員（コーチ 1 専門科目）：クラブ連盟対象コーチ 1 養成講習会
- ・準指導員（コーチ 1 専門科目）：全国小学生指導者第一次講習会・第二次講習会
(第一次＋第二次講習会終了で準指導員)
- ・ソフトバレーボール・アクティブリーダー養成講習会
- ・ソフトバレーボール・マスターリーダー養成講習会
- ・JVA ベーシックコーチライセンス（新設予定）

C：JVA 公認講師認定講習会

■JSPO 公認スポーツ指導者・JVA 公認指導者講習会の講師を担う人材の育成

D：指導者資格更新研修会

■JVA 独自指導者研修会（指導スキルアップ研修・資格更新研修）

- ・都道府県別指導者研修会
- ・JVA コーチカンファレンス（公認講師資格更新対象）
- ・全国中学生バレーボール指導者研修会
- ・日本実業団バレーボール連盟全国指導者研修会
- ・クラブ連盟対象指導者研修会
- ・ソフトバレーボール・アクティブリーダー研修会
- ・ソフトバレーボール・マスターリーダー資格更新研修会
- ・ビーチバレーボール指導者研修会

E：資格取得事業

- ・日本スポーツ協会指導者資格復活登録申請・承認
- ・日本スポーツ協会「免除適応コース」承認
- ・FIVB 情報集約・関連事業

・障がい者受講支援事業

2-2-3. 審判員養成・活動支援

○審判員養成事業

国際大会における国際審判員の派遣および国内競技会の審判員派遣とともに、円滑な競技会運営のために、6人制・9人制・ビーチバレーボールの審判技術向上と審判員の養成・育成を目的に、主な事業を下記により開催する。

<A：審判技術強化事業>

■インターナショナルレフェリー技術強化事業

事業名	期日	開催地等
(インドア) 海外遠征派遣事業	8月	高校選抜遠征に帯同
(ビーチ) 海外遠征派遣事業	4月～9月	AVC Beach Tourに参加

■ナショナルレフェリー技術強化事業

6人制

事業名	期日	開催地等
1) トップレフェリー技術強化事業		
関東・東海・関西大学男子1部リーグ (春季・秋季)	4月～5月 9月～10月	
S1 レフェリー認定講習会	6月25日～26日 6月18日～19日 6月26日～27日	山形県山形市・天童市 東京都 兵庫県姫路市
S1・S2 レフェリー技術強化事業	8月8日～11日	大阪 近畿大学
S3 レフェリー技術強化事業	5～8月	各ブロックへの講師派遣
2) Eスクール(語学研修)	(実技) 8月・12月 (講義) 5月・3月	大阪・愛知 東京
3) 6人制A級審判員技術強化事業	11/25(予定) 12/1～3	Web 東京 スーパーカレッジ男女大学選手権大会
4) A級審判員資格取得審査講習会	8月8日～12日	大阪 近畿大学
5) A級候補審判員講習会(A・Cキャンプ)	-	令和8年度は実施しない

6) B級レフェリーキャンプ	-	令和 8 年度は実施しない
----------------	---	---------------

9人制

事業名	期日	開催地等
1) トップレフェリー技術強化事業		
N1 レフェリー認定事業	5 月（予定）	大阪（予定）
N2 レフェリー技術強化事業	5～8 月	各ブロックへの講師派遣
2) 9人制A級審判員技術強化事業	11月20日～11月22日 JVA 第 95 回全日本バレーボール選手権大会 9人制男女	福岡県福岡市
3) 9人制レフェリー育成事業	未定	ブロックごとに開催
4) 9人制特別A級審判員資格取得審査講習会	-	令和 8 年度は実施しない
5) 9人制特別A級候補審判員講習会	-	令和 8 年度は実施しない
6) 9人制B級レフェリーキャンプ	未定	未定

ビーチバレーボール

事業名	期日	開催地等
1) トップレフェリー技術強化事業		
B1 レフェリー認定事業	4/18～19	静岡県浜松市
B2 レフェリー技術強化事業	5～8 月	各ブロックへの講師派遣
2) E スクール（語学研修）	6 人制に準ずる	
3) ビーチバレーボール A 級審判員技術強化事業	7/24～26	全日本ビーチバレーボール U-23 男女選抜優勝大会
4) ビーチバレーボールレフェリー育成事業	7/24～26	全日本ビーチバレーボール U-23 男女選抜優勝大会

<B：審判研修事業>

事業名	期日	開催地等
1) 全国講習会		
全国 6 人制審判講習会	2027 年 3 月 22 日（予定）	東京
全国 9 人制審判講習会	2027 年 3 月 27 日（予定）	未定
全国ビーチバレーボール審判講習会	2027 年 3 月 28 日（予定）	神奈川

全国ラインジャッジクリニック	未定	天皇杯・皇后杯ファイナル ラウンド
2) ブロック講習会		
ブロック A 級審判員講習会 (6 人制・9 人制・ビーチ)	-	各ブロックへの講師派遣
競技会事前講習会	-	各開催地
3) レフェリーインストラクター講習会	2027 年 2 月 23 日	合同部会時

<バレーボール>

2-2-4. 競技体験機会の提供

○競技者拡大事業

近年の急激な競技人口の減少は憂慮すべき事態であり、すべてのカテゴリーにおいて減少している。競技人口を増やすことは喫緊の課題であるため、競技者拡大に向けた事業の検証・整理を行い、現行の事業の継続、リニューアルも含めた計画（中期・長期含む）を策定する。また、競技者の更なる拡大・競技の継続に向け、小学生・中学生におけるバレーボールプログラムの充実・拡大を図るため今年度は以下の事業を実施する。

（１）SV リーグ選手と一緒にバレーボール教室

小学生のバレーボール未経験者及び初心者を対象に、SV リーグ選手（含 OB・OG）が参加してバレーボール教室を全国 4 会場で開催。

- ・日時：6 月～10 月までの各会場 1 日
- ・場所：全国の 2 会場で開催(予定)
- ・人数：各会場バレーボール経験者（約 50 名）、未経験者（約 30 名）指導スタッフ：4 名

（２）中学校ビギナー選手バレーボール大会推進

中学 1 年生からバレーボールを始めた選手への競技継続のモチベーションの促進とともに、競技の魅力及び競技力の向上を目的とするためのバレーボール教室及び大会(全国)を開催。

- ・日時：10 月～2 月までの各会場 1 日
- ・場所：全国 9 ブロック 13 か所で開催(予定)
- ・人数：中学 1・2 年（1 会場 20～30 校参加予定）

（３）全国小中一貫バレーボール教室

小・中学生合同のバレーボール教室を実施する。一貫指導の充実とバレーボール人口の増加を図ることを目的として、全国 2 会場（6 月～10 月）で開催。

- ・日時：6 月～10 月までの各会場 1 日
- ・場所：全国の 2 会場で開催(予定)
- ・人数：小学 5・6 年（30～50 名）、中学 1～2 年（20～30 名）

（４）幼稚園・保育園等でのソフトバレーボール（風船等）実践

ソフトバレーボールを通して、幼児期にバレーボールの楽しさを伝えるとともに、ボールを使ったコーディネーショントレーニングを実践し、幼少期の運動能力・発育を促す事業として、全国 9 ブロックで年 1 回(6 月～2 月)展開。

- ・日時：6 月～2 月までの各会場 1 日

- ・場所：全国9ブロックで開催（予定）
- ・人数：幼稚園・保育園児（1会場30名～40名）

（5）アンダー10大会促進

小学4年生以下を対象としたチーム内でレギュラー以外の選手の競技継続を目的とした大会を開催し、ボール接触機会と競技の楽しさを味わってもらうとともに、次カテゴリーでのバレーボール継続を促進。全国25都道府県で年1回(6月～2月)開催。

○全国小学生・中学生・高校生長身選手の発掘育成事業

将来有望な長身選手の発掘、育成、強化を目的に、公募および各ブロックからの推薦によるオーディションを行い、選抜した有望選手の育成強化合宿を実施する。そして、合宿に参加した有望選手のリストを小学生・中学生から高校生までをデータ化し、選手情報を経年的に強化委員会等で共有する。また、年1回各カテゴリー（中学生・高校生）別の有望選手達による選抜チームを編成し、海外で外国人チームとの国際試合を行い、国際的に通用する選手の育成を行うとともに、将来のオリンピックを見据えたターゲット選手を選定し、一貫した選手の育成を実践していく。

※2026年度、高校選抜チームはタイ遠征予定。中学選抜チームはイタリア遠征予定。

（1）小学生エリートアカデミーオーディション合宿

日時：2026年8月14日(金)～16日(日)2泊3日(予定)

場所：台東リバーサイドスポーツセンター(予定)

人数：小学5・6年 男子30名、女子30名 *スタッフ：17名

（2）小学生エリートアカデミー年末合宿

日時：2026年12月25日(金)～12月28日(月)3泊4日(予定)

場所：和歌山県田辺市 田辺スポーツパーク

人数：小学5・6年 男子15名、女子15名

中学1・2年 男子15名、女子15名 *スタッフ：17名

（3）全国中学バレーボール選抜強化(一次)合宿

日時：2026年10月8日(木)～11日(日)3泊4日(予定)

場所：岩手県紫波町「オガールアリーナ」「紫波町総合体育館」

人数：中学2・3年 男子30名、女子30名 *スタッフ：15名

（4）全国中学バレーボール選抜強化(二次)合宿

日時：2027年1月7日(木)～10日(日)3泊4日(予定)

人数：中学2・3年 男子12名、女子12名 *スタッフ：9名

日時：2027 年 2 月 21 日(日)～3 月 2 日(火)9 泊 10 日(予定)

人数：中学 2・3 年 男子 12 名、女子 12 名 ＊スタッフ：12 名

日時：2027年2月4日(木)～7日(日)3泊4日(予定)

人数：中学1・2年 男子40名、女子40名 ＊スタッフ：42名

日時：2026年8月14日(金)～9月6日(日)*各ブロック2泊3日

人数：各ブロック高校 1・2 年 男子 16 名、女子 16 名 ＊スタッフ：各ブロック 10
～15 名

日時：2027年2月12日(金)～14日(日)2泊3日(予定)

人数：高校 1・2 年 男子 48 名、女子 48 名 *スタッフ：32 名
 中学 3 年 男子 4 名、女子 4 名

日時：2027 年 3 月 19 日(金)～23 日(火) 4 泊 5 日(予定)

人数：高校1・2年 男子24名、女子24名 *スタッフ：16名

2-3-1. 社会活動の推進とパートナー協業による新分野開拓

マーケティング機会の創出

- ・パートナーやファンとのコミュニケーションの場の企画
- ・各大会の将来に向けた価値創造の戦略化

2-3-2. 新ブランディング活用

新しい競技イメージの構築

- ・新ブランディングを活用してビジュアルコミュニケーションを推進
- ・ビーチバレーボールの会場演出など新しいイメージによるブランディング

2-3-3. プロモーション戦略の立案・実施

- ・SNS分析による効果的プロモーション戦略の立案

2-3-4. ファン体験のクオリティ向上

○ファンマーケティングの拡大

- ・チケットやグッズ購入など同一IDによるユーザビリティ向上
- ・ホスピタリティ付き観戦などファンの体験価値の向上
- ・SNS積極活用や新グッズ開発によるバレとも会員の満足度向上

2-3-5. トップリーグと連動したファンマーケティングの推進

- ・SVリーグと連携し共同マーケティングのしくみの創出
- ・SVリーグと相乗効果を目指したファンクラブ戦略の策定

2-4. 社会貢献「豊かな社会の実現に向けた貢献活動」

2-4-1. 環境保護活動

環境保護活動

- ・省エネ・節水、節電の実践。
- ・ゴミを減らす3R（リデュース（Reduce））繰り返し使う「リユース（Reuse）」資源として再利用する「リサイクル（Recycle）」の実践。
- ・ビーチクリーン活動等。

2-4-2. 教育プログラム開発・実施

- ・つなぐスクール（親子参加による体験型学習プログラム）を実施する。
- ・修学旅行キャリア教育、職場体験
中学生、高校生によるキャリア教育や職場体験の受け入れ。

2-4-3. 生涯スポーツ推進

- ・宝くじの社会貢献広報事業として「宝くじスポーツフェア」ドリーム・バレーボール（元日本代表女子選手参加）への協力。

2-4-4. 特別支援活動

災害復興支援事業

- ・地震や台風、豪雨、火山の噴火など自然災害が発生した際に、バレーボールを通じた被災地交流事業の実施。（被災地の小学生、中学生、高校生を対象に適宜実施する）

2-5. 組織運営

「組織改革による、誠実で信頼される組織運営と全国ネットワークの連携強化」

2-5-1. ガバナンスコード適合性の継続的改善

ガバナンス関連事業

- ・情報保護、管理体制、責任体制の明確化
- ・ガバナンス研修やコンプライアンス研修の実施により、高いレベルの倫理観に従って行動し、誠実かつ公平・公正な行動を実践する。
- ・危機管理規程、危機管理マニュアルの策定により、さらに都道府県協会との連携を密にし、事業を健全かつ効率的、効果的に推進する。
- ・健全な財政体質の構築

2-5-2. 全国ネットワーク作り

マネジメント関連事業

- ・加盟団体支援（自立的な運営のサポート、地域共生の実現）

2-5-3. 経営方針の決定および適切な予算配分を実行できるシステム構築

マネジメント関連事業

- ・収支均衡（定常事業での全体収支均衡の実現と財務体質改善（赤字体質の脱却）
- ・計画的、戦略的な投資（中長期発展を見据えた投資の実行）
- ・業務のスリム化とシステム化

2-5-4. 人材関連施策

人財開発関連事業

- ・企画/推進人財の強化（要件に基づく人財開発）
- ・メンター制度の導入と定着（人員定着化を見据えた活動）

2-5-5. 国際交流・協力事業

アジア貢献、国際交流事業

- ・アジアスポーツフェスタ（多文化共生を目的とした体験型のスポーツイベント）への参加協力。
- ・モントリオール五輪の金メダリストや元日本代表選手のサポートを得て運営に協力する。